

2018.2.24

「近年の貨物輸送の動向について」

日本経営工学会九州支部論文誌『経営工学研究』第 20 号, 47 ~ 54 ページ.

【要約】

本研究は、近年の貨物輸送の動向について、一般貨物自動車運送(トラック運送)を中心について調査した。その結果、日本の国内貨物輸送の輸送機関別分担率は、トンベースでもトンキロベースでも、自動車輸送が国内貨物輸送のほとんどを占めているが、トンキロベースでは、自動車輸送が占める割合は、2009 年度の 63.8%をピークに毎年減少し、内航海運と鉄道が毎年増加している。形態別事業者数は、全国、地域別ともに貨物軽自動車運送事業者の割合が全体の約 70%前後であり、次いで一般貨物自動車運送事業者の割合が 30%前後である。また、特別積合せ(宅配便)事業者は、規模が大きい事業者の割合が多く、一般、霊柩、特定事業者(特別積合せ以外)の事業者は、規模が小さい事業者の割合が多い。1社平均営業収益は、2013 年度が 2012 年度と比較して、約 13%前後大幅に増加している。